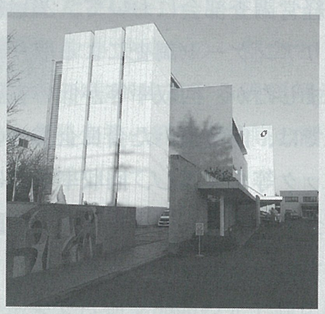
会員企業紹介 **岡本硝子 株式会社**

ガラスにこだわり…ニッチ市場で圧倒的な技術開発企業を目指す

特殊ガラスと薄膜で世界的な認知。自動車分野でもピンチをチャンスに変える！

岡本毅社長

会社プロフィール



本社	〒277-0872 千葉県柏市十余二 380 番地 TEL.04-7137-3111　FAX.04-7137-3112 URL.http://www.ogc-jp.com
資本金	1,762 百万円
従業員	240 人
事業所拠点	本社・ガラス事業所／千葉県柏市十余二 380 番地 薄膜事業所／千葉県柏市高田 1309 海外／中国（江蘇省）・台湾（2 拠点）
部工会加入	2010 年
代表者	代表取締役社長　岡本毅

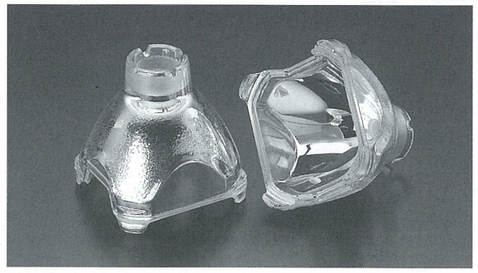
ガラス専業メーカーとして86年の歴史

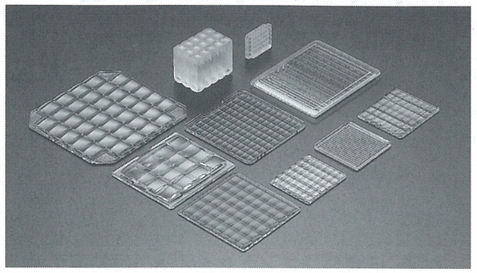
1928年（昭和3年）に東京・江東区でカットガラスを生産したことが同社のルーツだ。日本の造船産業が盛んな時期には船舶用ガラスのシェアが80％を超えた時期もあった。モータリゼーションの隆盛とともに自動車用ヘッドライトのカバーガラス（ヘッドレンズ）にも進出。高い技術力が必要なガラス製異型ヘッドレンズでは同社でしか生産できない技術であり、独占的な時代が続くなど全売上の約6割を自動車分野で占めるほどであった。

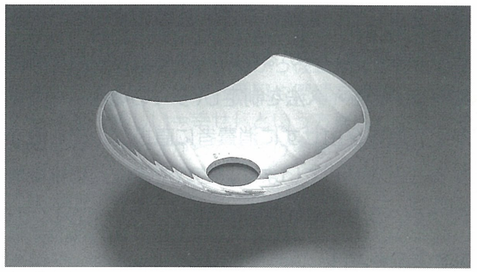
技術特化、専門特化による絶対的な付加価値戦略へシフト

そうした独占的な事業も社会の変化や技術革新によって永くは続かなかった。ヘッドレンズに関してはデザインの高度化や軽量化のため最近ではほとんど樹脂性に置き換わっている。

「樹脂が最適であれば樹脂に任せる。ただし、ガラスでなくてはならない分野に特化する」（岡本毅社長）という方針から、既存技術の転用を考え、医療分野と電子分野へ進出。歯科用デンタルミラー（口の内部を照らす照明用反射鏡）では世界シェア約70％以上、液晶プロジェクター用反射鏡では同約51％、フライアイレンズでは同約75％と三つの製品で世界シェアNo1を誇っている。決して派手ではないが同社の硝材開発技術、薄膜技術、精密成型技術がないと成り立たないといっても過言ではない。ガラスに付加価値をつけるため真空蒸着技術を導入し、独自に改良。特殊ガラスの組成・材料開発からナノレベルの薄膜技術、成型技術の融合と一貫生産体制の構築は今では同社の大きな特徴となっている。また生産設備においても特徴的な技術は自社開発しており、そうした技術も他社への供与も行っている。


液晶用プロジェクター


フライアイレンズ

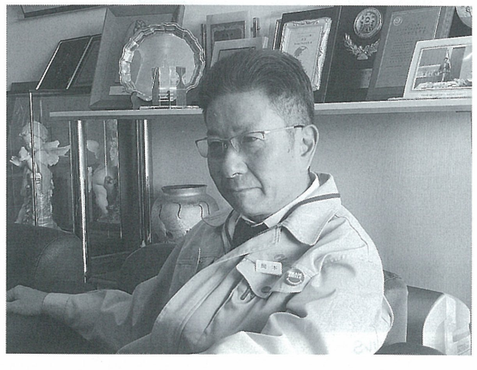

歯科用デンタルミラー

こだわりの技術開発と交通安全への貢献

「単純な製造業は海外との競争に負けていく。だからこそ日本独自、当社独自の技術開発力で差別化していかなくてはならない」と語るのは岡本社長。これはもちろん今までになかった技術を生み出すことも想定している。

例えば最先端のカーエレクトロニクス・安全分野でも同社の技術は生かされている。夜間の歩行者などの発見が容易となる夜間暗視装置には同社の近赤外線透過プリズムが活用されている。また今後の成長分野として期待されるヘッドアップディスプレイ（HUD）においては、基幹部品である、ガラス製凹面鏡や各種レンズ、フィルタを供給する体制は注目されている。関連会社が今春から新規工場を稼働開始させるなど同社の特徴をいかんなく発揮するはずだ。

これからの方向性について

他社がまねできないオンリーワン技術の確立を目指す同社。「目指す企業像は世界一働きやすい会社になること」（同社長）を掲げ、企業の規模だけ、あるいは売上など数字だけを追う会社にしたくないという。そのためには既存技術の先進化や独自技術の高度化をさらに進め、「自ら考える社員を育てること、採用すること」を念頭に岡本社長は日々社員とのコミュニケーションを大事にしている。

ユニークなのは事業だけでなく、人材採用においても特筆すべき点がある。新卒の採用試験で竹とんぼを作る課題やテニスボールのデッサンを描かせるなどものづくりへの情熱や個性、発想の豊かさという点に重きを置いた採用活動を行い、次世代の同社を担う「自主・自律」のクリエイティブな人材育成を心がけているという。